

平成29年度事業報告書

概要

本財団の主要な収益事業である宇宙航空研究開発機構（JAXA）からの受託業務に関しては、本年度は調布事業所では相模原、能代地域へと事業の範囲を広げた。角田事業所も追加受注を受けるなどの努力をした結果、受注総額は昨年より増えた。また事業所毎に担当者を決めた目標管理シートの下で達成度をフォローするなど運営手法の改善にも着手した。

一方、公益事業として例年どおり日本航空宇宙学会や傾斜機能材料研究会など、関連学協会の講演会やシンポジウムの開催支援、ガスバーナーによる耐熱材料評価試験法の普及、一般および青少年向けの科学技術の普及活動に対する支援を行なった。

対外調査活動では内閣府所管 SIP 枠の“ドローンによる橋梁点検”の研究開発もいよいよ第2期に入ったが実証実験中のインシデントを機に安全対策を重点的に実施し、安全・運用マニュアルを作成した。次年度は最終年度であるところからとりまとめ作業とともに、今後の事業展開も視野に入れた検討にも力を入れていく予定である。

総務面では規程類の見直しを行ない、更なる業務改善・作業手順の適正化・コンプライアンス確保などの改善を実施した。また勤労関係では、前年度より給料形態の抜本的見直しを実施し昇給を実施した。また、昨年度制定した内部監査規程に従い、調布宇宙センター関連業務を対象として業務監査を実施した。

以上